

まちづくり推進組織の会議記録

会議の名称	第9回（平成18年度第3回）かごしままちづくり会議
開催日時	平成18年10月6日（金）14：00～16：00
開催場所	かごしま市民福祉プラザ5階中会議室
出席者 （委員） （市職員）	委員12名、市職員11名 宮廻会長、津曲副会長、西園委員、時村委員、今別府委員、四元委員、梶島委員、岡本委員、武委員、永山委員、奈良迫委員、前田委員 宇治野企画部参事、中園企画調整課主幹、山下企画部参事、的場商工観光部参事、有馬商工総務課長、上林房都市計画課長、門倉都市計画課主幹 その他関係職員
傍聴者数	0名
事務局	鹿児島市企画部企画調整課
会次第	1 開会 2 報告 （1）第8回（平成18年度第2回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について （2）第8回（平成18年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） （3）第9回（平成18年度第3回）地域まちづくり会議等について 3 協議 （1）テーマ協議 （主）商工業、交通ネットワーク （副）観光・コンベンション、農林水産業 （2）その他協議 4 かごしま都市マスタープラン見直し素案の骨子について 5 閉会
会議の概要	1 開会 2 報告 （1）第8回（平成18年度第2回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について ○ 事務局から、第8回（平成18年度第2回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について説明。 （2）第8回（平成18年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） ○ 事務局から、第8回（平成18年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況のうち全市的な事項12件について報告。 ○ 委員から、以前から要望してきた高齢者福祉センターの幅広い柔軟な利活用については、今年建設された校区公民館の幅広い活用が可能になったため、当面は校区公民館を利用していこうという結論が得られたが、将来を見据えて、是非旧5町地域に地域福祉館的なものの建設を検討していただけないかとの

発言あり。

(3) 第9回(平成18年度第3回)地域まちづくり会議等について

- 事務局から、第9回(平成18年度第3回)地域まちづくり会議等の概要について報告。
- 会長から、これまでの地域まちづくり会議で数多くの意見が出されているが、同じような意見が何度も出てきたりしているのか、それぞれの現状を聞きたい旨の質疑あり。
- 委員から、これまでの意見を全て整理・説明しながら、テーマを定めて協議を進めているためか、議論や意見に深まりが出てきた。年月を経る中で、単に意見・要望を言うだけではなく、自分たちでできる事は自分たちでしていこうという傾向になってきているとの発言あり。
- 委員から、協定項目にある項目についての早期の予算化については、何度も要望・意見が出ているようだとの発言あり。
- 会長から、会議をきっかけに自分たちでやれる事はやろうという気運が高まるのはいいと思うし、地域のそういう動きに、今年度から行われている市民との協働のまちづくり事業のような行政のサポートがあるという姿が望ましいとの発言あり。

3 協議

(1) テーマ協議

- 事務局から、テーマ「商工業」「交通ネットワーク」に関して、商工観光概要及びコミュニティバス等についての説明あり。
- 委員から、コミュニティバスに関連して、公共交通等に関する地域住民アンケートを取ることだが、高齢者への配慮も含めたきめ細かなアンケートを取ってほしい。また、旧町を走っているコミュニティバスは、旧町の域内のみを対象とした路線でしかないので、旧町と旧鹿児島市の市街地、旧町と旧町といったような、幅広い視点からの路線の検討をしてほしい旨の要望あり。
- 委員から、都市マスタープラン見直し素案中に、車に過度に依存しない社会への誘導を図るという基本理念が出てくるが、具体的にどのような方向で考えているのかとの質疑あり。
- 事務局から、現在公共交通の不便地域においての公共交通のあり方を検討しているが、路線バスの利用促進や代替バスの運行、幹線道路の整備といった公共交通機関の走行環境の改善や、時差出勤の促進や乗り継ぎ機能面の検討といった利用しやすい環境づくりというような方策を講じながら、自動車交通から公共交通への転換を図りたいとの回答あり。
- 委員から、どの地域でも街なか空き店舗が目立つが、商工観光概要にある街なか空き店舗活用事業について具体的な施策を聞きたい旨の質疑あり。
- 事務局から、空き店舗を持つ商店街などで、この事業に名乗りをあげた所に、自分たちで空き店舗を埋めるための計画策定から入る店舗種類の選定、募集まで行っていただき、それに対する補助やアドバイスをさせていただくという市独自の事業で、今年度は1箇所のみ応募があった。個人に対する補助は行っていないとの回答あり。
- 委員から、市域が拡大した場合、中心市街地という拠点への各地域コミュニ

ティからの直接のアクセスと、地域コミュニティをまとめたサークル的交通網が重要だと考えるが、コミュニティバスについては、ただ走らせるだけでは活性化は図れないので、生涯学習講座などのコミュニケーションを生むような事業との連携や、支所同士の連携を密にする施策を打ち出して横の連携軸を作り、公共交通網を横にアクセスするニーズも一緒に作るべきとの発言あり。

また、高齢者の就業機会増進について考える際、シルバー人材センターへの助成やセンター登録者増のための施策だけでなく、高齢者とフリーターが限りある仕事量を奪い合っている現状も踏まえ、就業機会を増やす起業創出に力を入れるべき。若手だけでなく高齢者の中にも起業意思を持つ方はいるので、高齢者向けの起業家育成事業の創設や、ニュービジネスの創出や創造的SOHO事業者育成支援事業というところでの高齢者の間口を作る・広げるなどしてほしい旨の要望あり。

○ 会長から、横の連携軸という話が出たが、鹿児島市という新しい市域の中の町の機能分担について、二重投資を避けるような形にして整理していかなければならない。それが旧町と旧町の間での移動のニーズを生み、市全体として予算の効率的な運用にもつながるのではとの発言あり。

○ 委員から、観光宣伝隊というのがあり、以前博多どんたくの列の中に、鹿児島市からおはら隊が10人そこそこの人数で参加しているのを見たが、せっかくならもっと人を増やして目に付く形でのどんたくへの参加ができるといいとの発言あり。

○ 委員から、桜島地域においては通勤通学を始め、何事も地域内で完結するのはなく、桜島フェリーが生命線となっているが、乗り換えの不便さ、夜間の便数の少なさなどから常に不安と不便を感じながら生活しており、人口流出にも拍車をかけているので、地域住民の究極の願いである桜島架橋について、国・県の対応を見ながら実現に向けて前向きに検討してほしいとの要望あり。

○ 委員から、コミュニティバスを定時的に運行しても多くの利用者が見込めない所なら、どこかに人と車を常駐させ、必要になった人がある程度集まればそこに連絡して送迎してもらうような、必要な時に動かせる体制があるといい。路線にしる時刻にしる、もう少しニーズに合わせた臨機応変なバス等の運用システムを作ってほしい旨の発言あり。

○ 委員から、鹿児島駅から城山や磯方面までは、短区間なのに踏切数が多く、渋滞の発生や市街化構築の支障になっているので、高架にする等の改良を行って交通の円滑化を図り、都市開発についても配慮をしてほしいとの要望あり。

4 かごしま都市マスタープラン見直し素案の骨子について

○ 事務局から、「かごしま都市マスタープラン見直し素案の骨子」について説明あり。

○ 会長から、この見直し素案について意見のある方は、事務局まで伝えていただきたい。次回会議は11月末頃の開催を予定しているとの発言あり。

5 閉 会

= 以上 =

